

鷹の澤新聞

発行
出雲高校
新聞部

新型コロナ 対応と変化 今見つめ

保健部から 受験生の声

今年の2月から世界中で大流行し、多くの感染者、死者を出した新型コロナウイルス。日本でも全都道府県で緊急事態宣言が発令されるほど感染が拡大した。現在、宣言は解除されたものの、第二波の発生が懸念されている。(中)

消毒の徹底

保健部の祝部成子先生に新型コロナウイルスの感染のリスクを減らしながら学校生活を送る上での注意点を聞いた。

まず気を付けることは手洗いや消毒の徹底だ。手毒をする時にも指の付け根や手首、爪の間を意識することが重要だ。特に消毒について「昇降口などに置か



アルコール消毒(左)、清掃の様子(右上)、食堂の様子(右下)

れている消毒液があまり減っていない。手からこぼれてもいいので、もったいないと思わず下までしっかりと押しつけてほしい」と話した。最後に生徒達へのメッセージとして「子供の頃から当たり前のように行ってきた手洗いや掃除の大切さを新型コロナウイルスが教えてくれたと思う。日本では無礼とそれがちがいが、少しでも体調が悪ければ、自分のためにも周りのためにもしっかり休養をとることが必要だ。また、出雲高校生はこのような緊急事態でも無理をしがちであり、身体的にも精神的にも疲れがたまってしまうので、一気に全開にしないで少しずつ様子を見ながら頑張ってもらいたい」と語った。(土・七)

先行き見えず

学校内ではどのような影響が出ているだろうか。「授業が遅れているので間に合うか不安です……」受験を控える小林美琴さんは授業進度を心配した。新型コロナウイルスの感染拡大により、特に3年生にとっては先の見通せない状況が続いてい

る。休校中の学習は手探りで「普段、時間がとれない苦科目を中心に復習していた」と振り返った。休校をきっかけに自分を見つめ直し、学習の意識を変えた3年生もいたようだ。第二波が到来することを憂慮しつつ、学習へ向かっている。本校の食堂では机の間隔



日常生活を営む上での基本的生活様式(厚生労働省ホームページから)

をあげたり、掃除の際はアルコール消毒で除菌したりするなどし、感染の予防に力を入れているが、新型コロナウイルスによる影響は顕著に現れている。新入生が入学した直後の臨時休校によって新入生の食堂デビューが遅れたことや分散登校中は開けなかったこともあり、この時期の利用は例年に比べ約半分ほど。パンの売り上げは例年のおよそ3分の1ほどで「毎日の仕入れはギャンプルのよう」と食堂の藤原牧代さんは語る。

1年生の選択授業の音楽も大幅な変更を強いられた。音楽科の田中久士先生は現状について「マスク着用はもちろん、距離を取り、椅子に座った状態で合唱をしている。歌いづらい」と話した。今後はマスクを外す必要のあるリコーダー演奏を、それ以降に行う予定だったキーボード演奏にするなど当初予定の変更を行う。(橋・二)

最善の運営を

新生徒会発足

5月29日(金)に前期生徒会会長・議長選挙が行われ、生徒会長に神田真秀さん、議長に本田真央さんが就任した。今回は就任した2人に今後の生徒会活動の展望について聞いた。

神田さんは「1年生の時に参加した生徒会活動で見たかった課題や良かった点を反映していきたい。この状況で何ができるかを考えて、久徴祭を中心とした学校行事に皆の意見を取り入れ、より良い学校生活を創

り上げていきたい」と意気込んでいる。また、本田さんは「今の出雲高校に不満はないが、自由な校風などの良いところを伸ばしていきたい。新型コロナウイルス流行下の影響を感じさせない生徒会運営を目指す」と熱く語った。

就任した生徒会長、議長の2人を中心に、令和2年度前期生徒会が本格的に始動した。前期には、年間の生徒会行事最大イベントで

式典は中止

10月17日(土)に本校体育館において開催される予定であった百周年記念式典が中止となった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けての措置となる。

1920年に島根県立今市高等学校が設置されてから、2020年で100年を迎えることを受け、様々な記念事業が計画された。百周年記



修繕工事が予定される女子運動部室棟

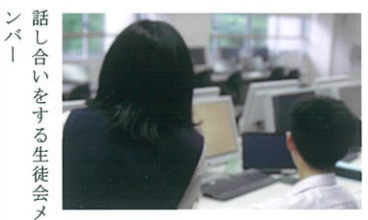
100周年記念事業

念式典はその一環として企画されていた形だ。式典では島根県知事や出雲市長を来賓として招き、本校吹奏楽部、弦楽部などによる演奏会を行う予定となっていた。その他の事業として、卒業生名簿、記念誌の編纂、久徴会基金の設立などが行われる。久徴会基金は現在、未来の本校生徒が充実した学校生活を送ることができるよう学校作りを目的に本校卒業生から寄付を募り、設立された。基金は現在、3760万円が集まり、久徴園整備事業や部活動設備整備事業などに使用される。その一つとして、老朽化の進んだ女子運動部室棟の修繕にも活用される予定で、2学期中に着工し、半年後の完成を予定している。久徴会事務局長として記念事業を担当する吉村隆先生は「式典がなくなってしまうことは残念だ。だが、環境整備などはできるので、それらに精一杯取り組んでいきたい」と話した。(寛・光)

島根県知事賞受賞 コンテスト

3月25日(水)に鳥取大学医学部附属病院で行われた「第1回発明コンテスト」で3年生物質科学3A班が出場し島根県知事賞に選ばれた。本コンテストでは医療・介護分野、SDGsへの取組分野の2分野にて、高校生が発明を披露した。物質科学3A班は「災害時に水の確保」を目的に、日用品で作成出来る、ろ過

装置「どこでも飲めろンで水」を発明した。また、ろ過装置に用いる「花崗岩」の吸着性能の高さも発見した。班長の南場大輝さんは「石やペットボトルなど災害時にでも確保できる材料にこだわって作成した。さらに改良を続け、この発明で1人でも多くの命を救いたい」と語った。(新)



話し合いをする生徒会メンバー